

第4回分収林地を含む森林管理のあり方検討委員会 議事要旨

- I 開催日時：令和6年12月26日（木）14時00分～16時00分
開催場所：兵庫県庁第3号館6階 第1委員会室

- II 出席委員（出席5名）
金澤委員長、大橋委員、上月委員、寺元委員、長谷川委員

- III 議事次第
 - 1 開会

 - 2 議事
分収林地を含む森林管理のあり方に関する報告書（案）の検討（資料2）
各委員から意見聴取（別紙1「主な発言等」参照）

 - 3 その他

 - 4 閉会

(別紙1)

主な発言等

●委員

- 目標の森林のタイプに沿って樹種を選定していくことが大事であるが、兵庫県で元々歴史的によく育つ、県の風土に合った樹種とは何かを調べる又はデータベース化するといったことが記載されていない。過去の植生や過去によく生育していた樹種を把握しておくことは重要。
- CO2 固定能力や生物多様性の引き金になるなど、各樹種的能力を科学的に評価していくことが大事である。広葉樹とひとまとめにせず、どういう場面でどういう樹種が必要なのかその根拠となるデータや情報をそろえることが大事。
- 普及啓発イベントについて、教育機関向けと県民向けと分けて記載されているが、都市部と山間部両方を巻きこむものや子供と企業など、複数の異なる属性のグループを連携させて巻き込み、様々な立場の人が一緒に森林について理解したり学んだりできる場があると、それが幅広く色々な効果発揮するのではないか。
- 森林に関するイベントを開催するだけではどうしても元から関心のある人だけが参加し、啓発効果が低い。外部のイベント等に積極的に参加し、情報発信していき、普段森林になじみのない人が何らかの形で森林について理解したり、目にとめたり、あるいは遊び場やハイキング等で森林と触れ合える機会を持ってもらうような取組があると理解が高まるのではないか。
- 林業の収益化については木材の質の改善を行い、ブランド化といわずとも県産材の価値を色々な人に認めてもらえるとよい。県産材は質が低いという評価も耳にするので、それを払拭する取り組みがあるとよい。

●委員

- 針広混交林化にかかるコストやどのような施業をするかについて記載がない。収益化を求めないのであればなるべくコストのかからないような整備方針であるべき。

●委員

- 全体的に「〇〇が必要だ」、「〇〇すべきである」といった記載が多く、報告書の内容が暗く重いものになっている。森林は木材の利用をはじめ、化石資源を置き換えていくような未来の資源である。それを活用していくというような明るいイメージとしてほしい。
- 都市在住で森林と直接関わりのない県民も多い。今後の県の森林をどのように変えていくのか新しい戦略をアピールすることで、都市住民に納得していただけるのではないか。

- 防災については都市住民の関心が高いと思われるため、防災に係る記載をこれまでの実績だけでなく、新しい森林管理をしていくことでどのように県民の命を守ることにつながるのか、どのような効果があるかにも触れるべき。

●委員

- ワンストップ体制を構築してもそれが上手く機能しないと結局うまくいかない。有効に機能することで目的が達成されるという表現のほうがよいのでは。
- 具体的な移行方法について市町と協議していく旨も明記すべき。

●委員

- 整備方針は出たが具体的に誰がどうやってゾーニング等進めていくのかが課題。県の業務量は多くなるが報告書の内容を実現させてほしい。

●委員

- この報告書は収益だけでなく、森林保全や生物多様性等森林の役割を広げているという発展的なものであり、その視点で考えると明るい報告書にすることはできるのではないかと思う。
- 災害に係る機能評価はされているが、生物多様性の向上等についても数値化ができるように今から準備すべき。
- 兵庫県は多様な森林を抱え込めるキャパシティがある。兵庫県の森林に独自の特徴が出て、他県に誇れるような森林が形成されるとよいと思う。

●委員

- 兵庫県の森林の機能の評価額を見ると、分収林の評価額も低くない。
- スギ・ヒノキ林が針広混交林に代わるとどのような機能がどのくらい高まるか等といった整理ができればよい。
- 報告書にある評価額はざっぱな算出に感じる。別の算出方法もあるので比較検討し、評価方法やPR方法を検討すべき。

●委員

- 森林の機能の評価方法は、代替法による試算であり、評価できていないものも多々ある。読み手にその勘違いが生じないようにして気を付けてほしい。